Architectural Institute of Japan

9238

日本建築学会大会学術講演梗概集
（中　国）1999年9月

中国建築の近代化過程における建築思想の特徴と矛盾（1950～1970年代）

正会員　○　姜　涌*
同　近藤正一**
同　村瀬宏典***
同　吉田孝司*
同　若山　滋****

1．序

本論文は，既往の研究（参考文献1）に参照）において，1950～1970年代の中国建築の現代化過程における建築論を中国の『建築学報』より抽出し，建築用語のキーワードを統計的に分析することにより，当時の建築学におけるキーワードの枠組みを考慮しカテゴリーの仕組みを明らかにすることに基づいて，さらに各建築論の本文を詳細に考察し，建築家の言説に現れる建築観の論理的構造を具体的に整理することにより，中国特有の社会主義建築思想の潮流とを歴史的に解明することを目的とする。

2．中国建築思想の特徴と変遷

1950～1970年代の中国における社会主義建築思想は、概ね「民族形式」と「復古主義の批判」・「反右闘争」と「設計大躍進」・「十大建築」と「中国的社会主義の建築新風格」・「建築形式と風格」と「住宅の討論」・「設計革命」と「干打塁精神」・「現代の民族風格」と「建築の工業化」の6期に区分できる。1954年以後，中国の独自性を帯びた社会主義に相応しい建築を模索することから始まり、経済優先の設計方針や大衆路線による精神論、あるいは時折表面化する専門家への反発などを経て、1960年代に民族様式を踏まえた中国的社会主義建築の一種の雛形が提示されるに至る。「文化大革命」前夜となる1965年以後，煽動的な政治的発想に基づくイデオロギーに関する議論が支離滅裂に展開される。1977年以後、自由な討論が回復し，その後の改革・開放路線における建築界の活発化の起点となる。各時期における建築論のテーマ，社会・文化・建築の関係とキーワードごとに総合的に整理し，建築思潮の特徴と変遷を説明する（表-1）。

【政治性の主導】 1950～1970年代の中国における建築思潮全体を通して，焦点となる用語が，各時期の政治・経済における出来事に時宜を得たテーマとして現れる。中心となる用語には常に統制的で「政治第一」の傾向があり，共産党（政府）の建築政策による建築設計の方向性が決定され，「専門家」としての独立性は否定され，大衆運動を最重要視し，人民全体による政治動員体制の運営方式が尊ばれる。物質的価値より精神的能動性を重んじ，社会上・学術上の階級闘争と思想改造が進められる。これらは，建築学の理論・設計・方法・指針に深い影響を与えたといえる。

【経済的条件による制限】 中国政府は国家投資などの経済政策によっても建築界を制御する。中央政府は「重点建築」と「普通建築」あるいは「非生産建築」と「生産性建築」といった「二重基準」を設定し，重要でないとされる建築は「美観」よりも「実用性」と「経済性」が重要視され，「標準設計」・「通用設計」・「定型設計」に従って建設コストが押さえられる。すなわち，政治家の虚栄心と経済的な実態との狭間で，建築家は，政治的記念碑など一部の建築を除き，ほとんどの場合，極めて表現を制限されることになる。それに対応して，「芸術性＝豪華な建築物＋伝統様式の装飾」・「経済性・実用性＝廉価性＋手法の貧弱」という価値観が定着し，建築の「物質性」と「精神性」，「建築芸術」と「建築科学」，「形式」と「内容」等の二項対立的な概念が中国の建築論における定式として確立される。

【文化性と芸術性】 1910-20年代のボザール（Ecole des Beaux-Arts）式建築教育を修めた当時の中国建築家達は，「建築＝建物＋装飾」という折衷主義建築観を根底にもちつつ，建築は文化と芸術の一部分として捉えられ，様式や構図の検討・様式のイデオロギー的な意味・様式のみに価値をおく建築設計および理論などが多く現れる。社会主義国家が成立し，国家基盤の建設に社会的任務として直面しているにもかかわらず，時代性と象徴性を表現する建築様式の課題に主眼を置く。それらは，ソ連の「社会主義・リアリズム」文芸・「民族形式・社会主義内容」の原則・毛沢東の「民族的・科学的・大集的」な中国社会主義文芸・「伝統の継承と創造」・「十大建築」の新様式などであり，中国的社会主義建築の基礎を作る。建築家は，これらの政治的・経済的思想に消極的な同意の態度を示しつつ，それとは別の思想として「物質性」と「精神性」，「建築科学」と「建築芸術」といった二元対立的な建築論を提起し，政治的圧力の間隙を縫って様式論を展開する。

3．中国建築思想の矛盾性

上述のように，中国における建築家の言説は，政治的・経済的・文化的背景に上述のような建築家の言説の形成と社会実態に従って，中国的・社会主義的建築思想の理論体系は，中国建築家の思想パターンを育成し，建築家の実践及び理論を潜在に決定していく。建築思想の哲学階層・イデオロギーの絶対中心の地位と特権・建築指針の統制作用・ある時代に相応しい中心の言説と建築様式の存在・建築芸術のイデオロギーの機能・建築家の民族文化の復興と

The Character and Contradiction of Chinese Modern Architecture: 1950s--1970s

JIANG Yong, KONDO Shoichi, MURASE Hironori, YOSHIDA Koji, WAKAYAMA Shigeru

NII-Electronic Library Service

Architectural Institute of Japan

段階	1954-1956：民族形式の提唱と批判			1957-1958：建築理論の政治主導の確立	1959-1960：社会主義新風格の実践	1961-1964：新風格より建築風格--建築理論の発展と統合		1965-1976：政治が統制する建築学		
年代	1954：民族形式	1955-56：復古主義の批判	1956（-57）：百花斉放百家争鳴	1957-58：反右と大躍進の建築	1959-60：新風格の実践と理論	1961-64：新風格の発展	1961-64：建築風格の論議	1966：干打壁/三結合/設計革命	1973-76：批林批孔/儒法闘争
代表的な建築理論/中心議題/単語	民族形式/社会主義内容民族形式/社会主義リアリズム	「梁思成が代表する形式主義・復古主義の建築理論」/建築の内容と形式/「適用性，経済性，可能の限り，美観に注意する」	百花斉放/百家争鳴/民族形式/新形式/現代建築	社会主義の建築/建築の時代性/科学性/芸術性/整風と反右	社会主義建築理論/仕組みの「新風格」/「中国的社会主義的建築新風格」/「新而中」/伝統と革新	「新・中」の建築新風格/住宅と居住区/中国社会主義建築新風格・	「建築風格」/時代性/民族性/地方性/「建築の内容と形式の関係」	設計革命/三結合の現場設計/干打壁	批林批孔/儒法闘争/ブルジョアジー設計思想の批判/文化大革命/「英雄史観」/「上智下愚」論/「克己復礼」
建築理論の特徴	社会主義の中国的な様式の模索，ソ連から社会主義内容・民族形式の理論の導入と中国化	社会主義建築の芸術性と中国の国情を考慮する全面的な建築理論の構築，共産党の建築方針の論証	建築家の自由な討論，建築の経済性・政治公式化に対する反発，建築様式の自由な追求	建築理論とイデオロギーの闘争との繋がり，思想路線の下で建築のプロレタリア化	「十大建築」の国家様式の実践と方法の総括--建築の階級性/文化性（伝統性）/現実性（国情）	社会主義の建築様式の基準及び論証--伝統様式に基づく「新風格」の創造及び「建築風格」の統括	建築様式の社会基礎は，建築の実用性・技術性・時代性・地域性によって構成する	政治運動の渦中で，プロレタリア思想性・群衆性及び国情に基づく経済性の建築基準	プロレタリア思想が統制する設計思想-政治理論/路線闘争/群衆観念，路線闘争による建築歴史の再編成
建築本体論/建築の特徴	建築の芸術性と階級性，党性がある・「建築=建築芸術」	建築の両重性-機能と美観によって，建築は物的と精神的な特徴がある・「建築=建築芸術+建築科学」・建築の精神的な機能の枠内で建築の階級性がある	建築が両重性であるのは公認される	物的なと意識的な両重性・建築の社会主義のイデオロギー機能による社会主義建築を確立する	建物は，生活と審美の需要を満足する両方面の作用がある・建物の基本要素は機能・技術・形象であり，一面的な「機能主義・構成主義・復古主義・折衷主義」を批判すべきである	なし，1959年の討論の結果を継承する	社会現象としての建築は，工程と芸術の統一である・階級社会の下で建築の階級性である・社会主義建設の中で建築の重大な政治的意義がある	建築思想・建築界で階級と階級闘争がある・延安作風と干打壁精神は，正しい建築思想の基準であり，都市と農村・工業と農業・精神労働と肉体労働の三大差別を除去し，「自力更生・硬苦奮斗」方針を実行する	プロレタリア思想が一切を統制すべきである・路線闘争が階級闘争を反映し建築理論と実践を決定する
建築芸術論	社会主義・リアリズム，建築の芸術的表現の目的	内容と形式の原理によって，建築の内容と形式が統一される・建築の実用性・経済性・芸術性を統一される・「機能主義」，「結構主義」，「形式主義復古主義」が批判される	建築様式の時代性，様式選択の自由を提唱する	プロレタリア思想とフルジョアジー思想の闘争が建築芸術を主導する・復古主義・形式主義・唯美主義・近代主義が批判されるべきである	唯物主義と弁証法より建築芸術の特徴は，経済条件の限り・思想性と階級性・可能の条件の下で美観に注意することである	建築風格が時代を表現する・今の我々の建築風格は当代の政治状況・総路線・大躍進の勝利・人民公社の社会の仕組みを反映すべきである	建築の形式と内容によって，建築芸術性の特徴は物的な基礎・構造の芸術性・建築の美の法則である・遺産と伝統の区別に基づき，伝統が革新すべきである	なし	なし
社会主義の建築の性質と特徴	文芸界の「社会主義リアリズム」原則によって，建築界で「社会主義内容民族形式」の方向を決定する	建築の社会主義リアリズムの性質によって「民族形式・社会主義内容」の方針が確立される・建築の形式が機能，技術，思想性によって決められる・民族形式の使用と発展を提唱する	社会主義の建築は，機能・構造・美観の全面性があるべきである	社会主義建築の特徴は，大躍進の作風・プロレタリア思想性・地方の特徴である	人間に対する最大制限の関心・伝統の研究と継承は社会主義建築の基本原則・建築の社会性によって階級性・設計基準-政治第一・群衆観念・個人より団体創作は，社会主義の建築の特徴である	思想の解放・迷信の破滅・集体の創作・群衆路線・完の正確な路線の指導は，社会主義建築思想の基礎である	「実用性・経済性・可能な限り，美観に注意する」の建築方針と「大量・快速・優質・節約（多・快・好・省）」の建設指針は我々の社会主義の建築の特徴を決定する	正確な設計は実践に生まれる・この社会主義の建築方向を維持すべきである・「大量・快速・優質・節約」建設することを実現し，「独立自主・自力更生」の方針に従い，中国自分の道路を開ける	建築は社会の状態を反映する・社会主義社会で路線闘争の続けによって，政治理論の学習・革命の続けの必要性がある
建築設計論/我が国の設計方向・技法	我々の建築は必ず社会主義の建築であり，「民族的・科学的・大衆的」建築である・「文法」と「単語」によって「中国の文章」を作る・中国建築の基本的な特徴（木造の構法と様式を中心）の伝統的な様式を模倣し学習する	過渡時期の国情によって「実用性・経済性・可能な限り，美観に注意する」の方針を確立し，建築界でプロレタリアの唯物主義とブルジョアジーの唯心主義の路線闘争を注意し，復古主義・形式主義を批判すべきである	経済の限り，民族形式を利用するはずである・建築家の自由思想と創造性が活発されるすべきである・設計殿技の実行によって，新中国の民族形式を創造する・現代社会の技術と精神を反映する新形式を追求する	共産党の指導に従い，政治性・群衆性の基準に基づき，建築創造を進行する	「設計競技・反復評比」の「団体創作」の設計方法，伝統と革新・学習と創造，「中国的社会主義的建築新風格」の様式基準，普通建物と重要建築（特別な政治建築）の区分けは，建築設計の基準である	「実用性・経済性・可能な限り，美観に注意する」の建築方針に従う・「我が国の社会主義建築の新風格」は人民的・大衆的・科学的建築風格である	伝統と革新にける「認識-分析-批判-継承-革新-邁用」の遺産を継承する過程がある・建築の形象に基づく建築風格の時代性・社会性・民族性・地域の特色がある・「大量・快速・優質・節約」の建設指針は我々の指針である	「独立自主・自力更生」の方針より，大型化・西洋化・全面化のブルジョアジー思想を批判し，三結合の設計革命を提唱する・正しい設計基準が「社会実践（生産闘争・階級闘争・科学実験）」によって決定する	現段階の我が国の建築界の路線闘争が存在する・我が国の古代建築技術・都市計画の路線闘争と階級闘争の密接な関連性がある
中国的建築様式の創造	「大きな屋根」の「総輪郭」は，「民族形式」のモチーフである・伝統的な部品と装飾は，「民族形式」の「単語」である	実用性・経済性の限り，美観に注意する建築様式	「北京法式」の公式化・政治化の官制様式の反対・「現代主義」様式・「流動空間」等の自由な追求	地方特色がある様式	「十大建築」が代表する「中国的社会主義的建築新風格」の国家様式-西洋古典構図と中国古典装飾と様式の簡潔化	「我が国の社会主義建築の新風格」という伝統様式の近代化	時代性・社会性・民族性・地域の特色を反映する「建築風格」	なし	なし
著者と題目	張祺夫：在中国建築学会成立大会上的講話，建築学報5401号・梁思成：中国建築的特徴，建築学報5401号・王麓：継承和発展民族建築的優秀伝統，建築学報5401号	崔立林：建築芸術と美しさ及び民族の形式論，建築学報5501号	鮑鼎：対在建築界展開「百家争鳴」的幾点意見，建築学報5606号・蔡雄泓等：我們要現代建築，建築学報5606号・周卜颐：従北京幾個新建築的分析談我国的建築創造，建築学報5702号	社説：深入開展建築界的反右派闘争，建築学報5705号・王之力：在建築歴史学術討論会上的総結発言，建築学報5811号	劉秀晔：創造中国的社会主義的建築新風格，建築学報5909-10号・袁鎮臣：関於創造新的建築風格，建築学報5901号	貝聚祥：建築的歴史発展和中国社会主義建築新風格的成長，建築学報6108号	梁思成：建築創造中的幾個重要問題，建築学報6107号	母興元：錯誤的建築理論必須批判，建築学報6603号・大庸油田建設設計院：「干打壁」房屋的設計与施工，建築学報6604-05号・国家建委写作小組：設計革命勝利的十年，建築学報7406号	北京市建築設計院大批判組：英雄史観是資産階級設計思想的支柱，建築学報7401号・中国科学院修繕一隊工人理論組：法家路垂鉛促進我国古代建築工程的発展，建築学報7501号

表-1　1950～1970 年代の中国建築理論の特徴と変遷

象徴の社会的責任のような，主導思想体系・団体価値観・建築家の主体性など一元化の原点と評価基準が存在している。現代中国の建築思想におけるある時代の焦点によって言説を統一する一体化の思想体系は，建築の終結価値を決定する。他方，政治・経済と文化・様式の二層の建築価値観・折衷的二元対立の建築論の構造と変遷法則は，マルクス弁証法の「正/反」の二元対立と融合に従って，様々な対語の範疇ペールの対立と両立によって構築され，社会の要求と建築家自身の試行の矛盾と折衷の産物であり，建築言説と理論の複雑な変化趨勢を呈し，この時代における社会主義的建築学の探索の中国特有な足跡であると言える。例えば，建築の「物質性/精神性」，「建築の内容/形式」，建築の「実用性・経済性/美観」，「建築スタイルの内容/形式」，建築遺産の「継承/創造」，建築の「科学性/芸術性」等である。これは，当時の政治的国際状態と社会主義的中国の思想上のマルクス主義と制度上の社会主義権威によって強化されている思想の教条である。特に，建築学の様式の一元化と二元対立の分裂の実態は，中国的・社会主義の建築思想の構造における歪みであり，今までの中国建築思想に根差した矛盾と論争の一つ根源であると言える。

4．結び

1950～1970年代の中国建築界には，政治的側面によるイデオロギー，経済的側面による工業化・近代化指向，文化・芸術的側面による民族文化・伝統の象徴に基づく理論が中国的社会主義建築思潮の根幹を成し，建築本体論・芸術論・社会主義の建築の特質・建築設計論・中国的建築様式の創造において議論されている。その結果，政治性の強い一元的な論理が存在する一方で，社会的要求と建築家自身の思考に基づく二元的な論理が混在し，これらは中国建築思想における根元的な矛盾となっている。現代の中国建築界でも，まだこの矛盾は存続しているものと思われる。

参考文献：1）姜涌，ほか4名：1950～1970年代の中国における建築雑誌に現れる建築用語の統計的分析，日本建築学会計画系論文集 No.516，1999年2月号　2）田中淡：中国建築学界解放後のあゆみ，建築雑誌（日本）1976年1月号，日本建築学会，1976年1月号　3）鈴木博之：新建築学大系・5-近代現代建築史，彰国社，1993　4）千賀正之：図書分類の実務とその基礎ーデータ作成と主題検索のアプローチ，日本図書館協会，1995

＊ 名古屋工業大学社会開発工学科　大学院生・工修　Graduate Student, Nagoya Inst. of Technology, M.Eng.
＊＊名古屋工業大学社会開発工学科　助手・工修　Research Assoc., Nagoya Inst. of Technology, M.Eng.
＊＊＊大成建設　工修　Architect, Taisei Corporation, B.Eng.
＊＊＊＊ 名古屋工業大学社会開発工学科　教授・工博　Prof., Nagoya Inst. of Technology, Dr.Eng.

NII-Electronic Library Service